

やぶにらみレコード考

YABUNIRAMI RECORD KOU

No.3 ジャケットの効用？(II)

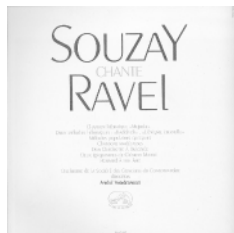
カッサンドル(A.M.Cassandre)は「ノルマンディー」や「ノール・エクスプレス」などの、アール・デコ期を風靡したポスターの作者として知られていますが、1950年代中頃から60年頃にかけて、かつてポスターのデザインを手掛けたこともある、フランスのPathe-Marconi社(ColumbiaおよびLa Voix de Son Maîtreレーベル)のジャケットデザインを手掛けていたことはあまり知られていません。

そのデザインは「初期LPデザインの常套手段だったイラストによるイメージやポートレート写真に頼ることなく、ひたすら文字のみによって音楽(あるいは演奏家)の個性を喚起させようとする果敢な精神がここにはある。」(「デザインの現場 増刊-12 インチのギャラリー」より)という言葉に集約されていると言えましょう。

単純明解な文字構成を特徴として、文字組みやタイプフェイスの変形によって提示されるデザインは、視覚的な効果を誇るだ

けではなく——いみじくもカッサンドル自身が語ったように——「詩的」なエモーションを想起させずにはおきません。

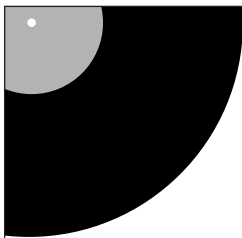
巷間カッサンドル・ジャケットと呼ばれる、カッサンドルの手になるデザインはゆうに100点を超え、なかにはジャケットだけを各国向けにデザインするといったような凝ったことまで行われていたようです。



これらの中から代表的なデザインを挙げれば枚挙に暇がありませんが、自らデザインしたペイニョ体を効果的に用いたジェラル・スゼーのラヴェル歌曲集(FALP 549)や、タイプフェイスの妙味を堪能できるオネゲルの「世界の叫び」(FCX 649)、演奏内容と相俟って高貴さを具象化したかのようなジョルジュ・エネスコによるベートーヴェンのクロイツェル・ソナタ(FC 1058)などが印象に残っています。

また、エクサン・プロヴァンス音楽祭におけるモーツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」の舞台装置を思わせる、マルケヴィッチによるバッハの「音楽の捧げもの」(FCX 567)は、数少ない非タイポグラフィ的なデザインとして忘れえぬものの一つです。(続く)

(K)



当店では、主にクラシックのLPレコード、SPレコードとクラシック音楽に関する輸入古書、国内古書を扱っています。

レコードは、50年代から60年代初期にプレスされたモノラル期のLP、および、器楽曲を含めた室内楽曲と歌曲のレコードを中心に品揃えしております。

また、探求レコード、探求書も出来る限り探すお手伝いをさせていただきますと考えております。

101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町ビル1F
PHONE/FAX 03-3294-6077 OPEN 13:00~20:00 日月祝休
info@classicus.jp www.classicus.jp

CLASSICUS

antique records

33 & 78 rpm

antique books